

臨床推論力を鍛える 「PBLチュートリアル」実践ガイド

機能1コース オリエンテーション



生理学を武器に、論理的思考力を持つ臨床医へ

Transformation Pipeline



生理学の理解
(基礎ブロック)



PBLチュートリアル
(能動的学修のエンジン)



臨床推論力
(光るアウトプット)



生理学は単なる基礎科目ではなく、生涯にわたって医師の思考を支える強固な基盤。

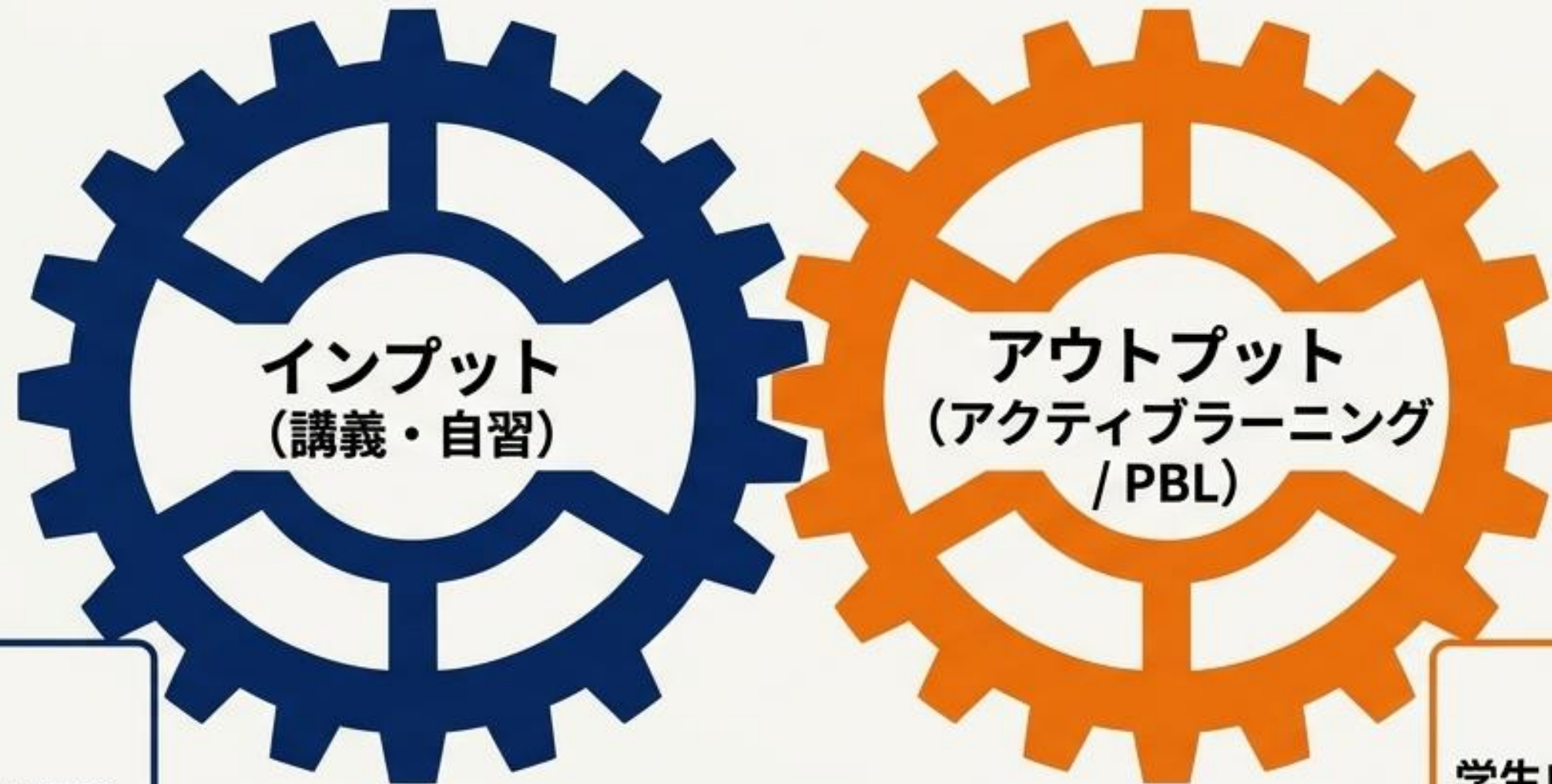


丸暗記を捨て、「なぜそうなるのか？」を常に問い続けること。



積極的な議論 (Discussion) を通じて、自らの臨床推論力をこの機能1コースから築き上げる。

学修の「両輪」：知識の獲得と論理的思考の定着



役割:

たくさんの学修内容を網羅し、知識を詰め込む。

役割:

学生自らがDiscussionを通して問題抽出・解決を図り、知識を定着させる。

講義だけでは医学のすべてを網羅できない。
PBLと講義を組み合わせることで、初めて臨床推論の基礎が完成する。

PBLチュートリアル「3つの鉄則」



「正常」と 「病態」の対比

正常の機能と比較し、病態生理的な問題点を抽出する。「なぜそうなるのか」というメカニズムを突き詰めること。



診断と治療は 「議論不要」

[CRITICAL WARNING]
このコースでは診断名や治療法はDiscussionの対象にしない。あくまで生理学的なメカニズムに集中する。



自ら学ぶ姿勢 (能動的参加)

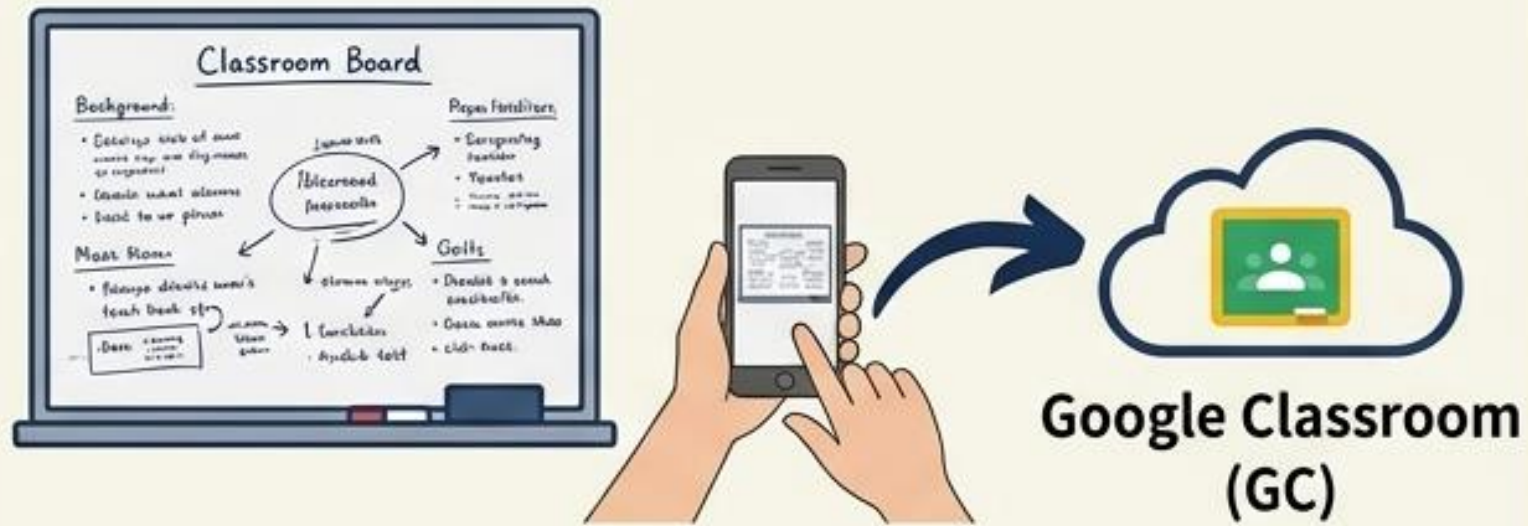
黙っていても学修にならない。少人数教育の場を活かし、できるだけ発言し、議論を交わすこと。

チュートリアル授業の「5ステップ・サイクル」



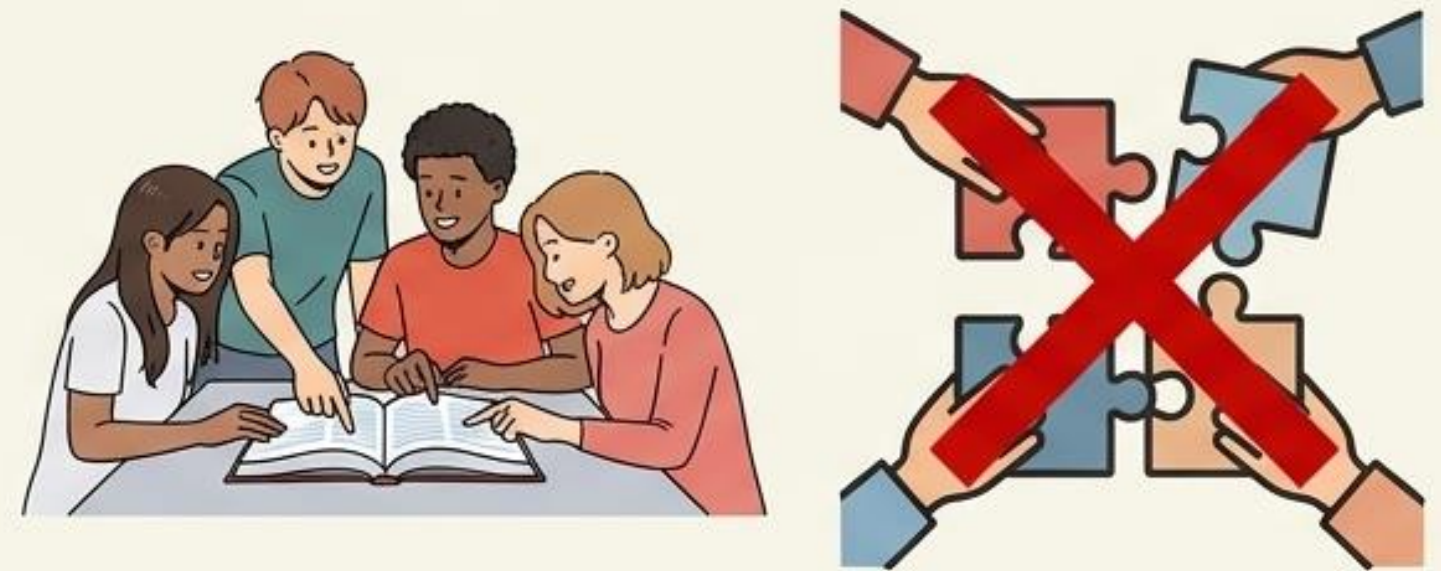
グループワークの実践ルール

Panel 1: 教室でのアクション（記録と提出）



- 毎回、議論をまとめたホワイトボードを写真に撮る。
- 班の代表者1名がGoogle Classroom (GC) に提出する。

Panel 2: 自宅学習の掟（絶対厳守）



- 課題の絞り込み: 自宅学習課題は**班全**全員で「1つか2つ」に絞る。
- **⚠ 分担作業は禁止!**: 「あなたはA、私はBを調べる」という分担はしない。**全員が同じ課題**に取り組み、持ち寄って議論する。

【最重要】 自学自習の質を決める情報ソース選び

講義だけで医学のすべてを網羅することは不可能。正しい自学自習が不可欠。

DO (推奨): 教科書・参考書



Why?: 基礎的な「生理学的メカニズム」が正確かつ詳細に記載されているため。

DON'T(非推奨):

SNS・一般向け医療サイト・AI

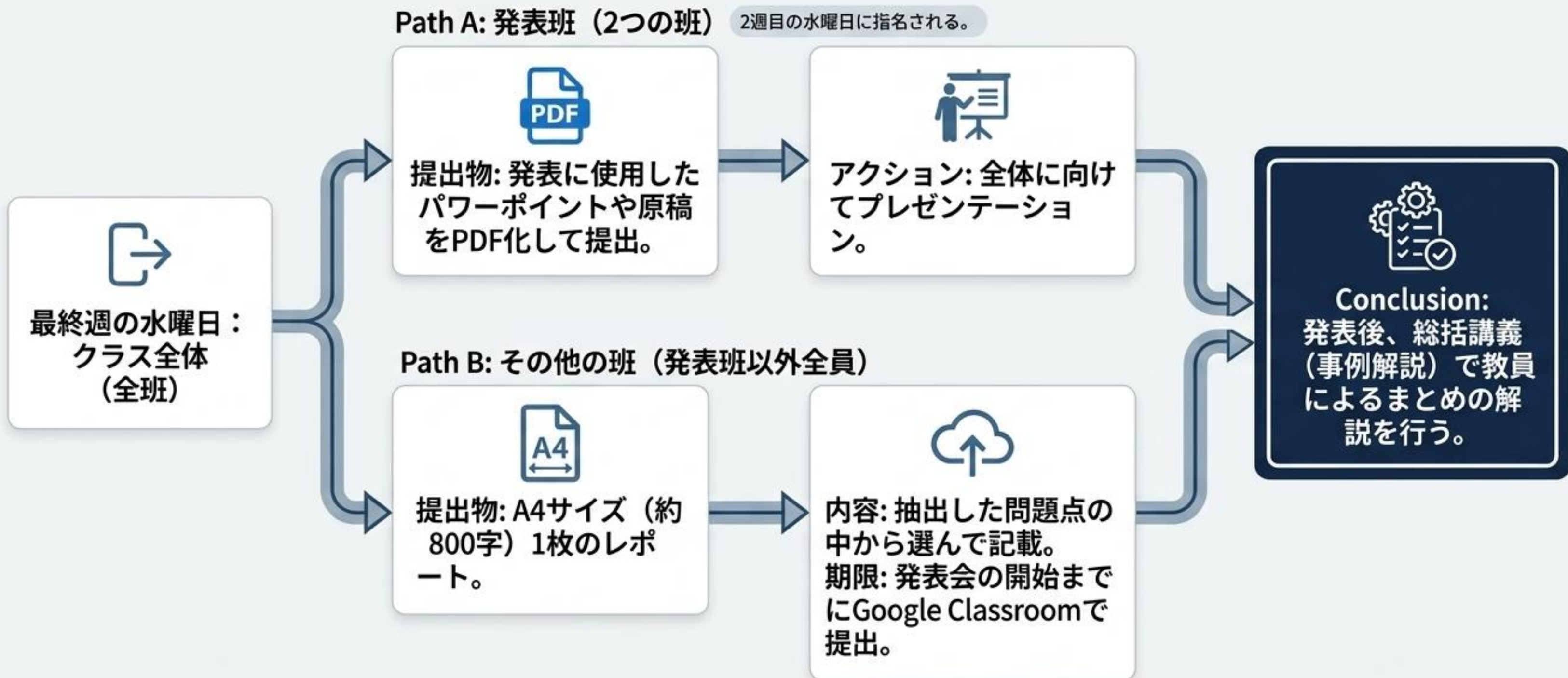


Why?: これらは「患者向けの診療視点（症状や検査、治療）」に偏っており、今学すべき「生理学的なメカニズムの情報」が不足している。



Note: 教員が見れば、どうやって勉強してきたかはすぐに類推できる。

成果の共有：最終日の全体発表会



自ら考え、語り合う4週間に

1: 表面的な症状ではなく「メカニズム」を突き詰める。

2: 質の高いソース（教科書）に当たり、妥協しない。

3: チーム全員で同じ課題に挑み、議論し尽くす。

さあ、臨床推論のエンジンを始動させよう。